

# 特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

## 第12回 定期総会 (通算17回)

### 議事次第 ・ 資料等

日時 2009年6月7日(日)

午後2時00分から午後4時00分

場所 三重県名張市上三谷268番地の1

エコリゾート赤目の森 会議室

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

## 第12回 定期総会

### 資料添付リスト

#### 議題

第1号議案 2008年度の活動報告と決算報告 議決事項

活動報告 3ページから5ページ

決算報告 6ページから10ページ

第2号議案 2009年度の活動方針案と 予算案 議決事項

予算案11ページ 活動方針案12ページ

上記 二議案は2009年6月7日の定期総会で承認の議決を経ることができました。

## 2008年度 活動全記録

- 2008年 4月25日 里地里山モニタリング 1000 の調査地として認定される  
3月に掲載された「ペレタイザー記事」の反響あり専門誌に記事掲載
- 4月下旬 名張市立赤目小学校4年生 里山自然散策体験授業
- 5月下旬 石窯の取り組み定着する 毎月第4水曜日  
エコ的な施設作りに頑張る 垂れ壁の設置 カーテン 二重サッシなど  
デイサービス赤目の森 日帰り旅行
- 6月 1日 理事会 赤目の里山を育てる会 総会  
中旬 日本ミツバチの巣づくり 4箱に拡大する  
15日 愛知県豊橋市で伊井野理事長 講演「ペレットの可能性」  
下旬 「里山ひろば」発行
- 7月上旬 名張市立赤目小学校4年生 里山自然散策体験授業 夏  
7日 全労災助成事業採択 「最小ペレタイザーの普及啓発」
- 7月18日 名張市市民公益活動実践事業 第1回  
27日 大阪枚方市 津田共有林組合・津田里山保全倶楽部 視察研修
- 8月20日—31日 09年夏ワーキングホリデー実施  
21日 日本農業新聞に「ペレタイザーの記事」掲載
- 9月 1日 国際ワークキャンプ 15日まで  
9日 「赤目の森で希少生物たちと出会おう&二胡コンサート」  
12日 名張市市民公益活動実践事業 第2回
- 10月 2日 ペレタイザーの研修 北海道の社会福祉法人  
12日 NHK ご近所の底力 現地取材 キャンプの青年達参加
- 17—19日 全国雑木林会議イン飯能 埼玉 理事長 講師協力  
26日 長野県安曇野市 理事長 講演
- 11月14日 名張市市民公益活動実践事業 第3回  
17日 静岡市 自治体フォーラム 理事長 パネリストとして参加  
22日 NHK ご近所の底力 番組収録 理事長参加  
下旬 名張市立赤目小学校4年生 里山自然散策体験授業 秋
- 29—30日 日本NPO セクター会議 東京 理事長参加
- 12月 6日 滋賀県研修会 理事長講師  
13日 みえパートナーシップ 10周年イベント 理事長 パネリスト
- 2009年 1月11日 モクモク 農学会にて、理事長講演会  
初旬 「里山だより」発行  
23日 名張市市民公益活動実践事業 第4回  
2月29日 和歌山県県会議員のバイオマス講座 理事長 講師  
3月17日 ナイス 08年春ワークキャンプ 3月31日まで  
19日—22日 青年里山ミーティングイン赤目の森 66名参加  
31日 赤目の里山を育てる会 「一般廃棄物再生利用業」指定登録

## 【議案 1】 2008年度の活動方針に沿っての報告

### 1. 特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会の基盤強化に取り組む (3年計画の初年度として)

三年計画の初年度として、様々な活動を通して、組織の基盤強化に取り組むことができたと考えています。

- ・ 組織内の業務を分担化して、無理のないスムーズな活動を行う。
  - 里山整備 ナイスキャンプの青年達を中心として 年間活動の中で行われてきています。
  - 広報 吉田理事を中心としての「里山だより」のカラー印刷発行 多くの人たちの記事を書ける方針
  - イベント 年間活動の中で位置づけていくことになった。青年里山フォーラムの実施による成果
  - 助成金事業 赤目に関わった全ての人たちに委託提案、自らの政策立案 政策実行の経験を積む
- ・ 親しみやすいイベントを開催して、里山のファンをたくさん作り出して。「自然観察会」などに取り組む
- 発案者の意見を大切にして、NPOの事業化を進める。青年里山フォーラムは青年達のやりたい気持ちを十分に発揮してもらうことができました。赤目の森の自然と設備を使って、何かやりたい人に利用してもらおうというような、そういうあり方も大切な赤目の里山を育てる会の姿勢であると考えています。
- ・ 基礎基盤を確立するための各種文書や資料作りを行う。
  - 赤目の里山を育てる会のツール作りはまだ、手が回りませんでした。
  - 会員募集 育てる会のチラシ パンフレット などは、何とか次年度で解決していきたいと思います。
- ・ 学生会員を増やしていく ワークキャンプや地元の大学生などと協力して「まちづくり」を進めていく。
  - 今年の年度で新しい会員は、14名でその中で学生会員は12名と多く、赤目の里山を育てる会の躍動感を作り出してきています。ただし、地元の学生、青年とのつながりを作ることは、フォーラムのための働きかけを行っても、大きな成果を収めることはできませんでした。

### 2. (特) 赤目の里山を育てる会として、創造的な取り組みを行い、魅力ある里山活動の手本をつくる。

里山広場の募金箱への100万円の寄付金によって、ペレタイザーを購入することができて、そのペレタイザーの機能を十分高め、公益性を高める中で、機械の紹介を朝日新聞の名古屋版に掲載してもらい、その記事のお陰でNHKの「ご近所の底力」にまで出演するようになったばかりか、街路樹の剪定枝の処理として、ペレタイザーで燃料化というアイデアで、名張市とやり取りをした結果、赤目の里山を育てる会が「一般廃棄物再生利用業者登録」にまで発展し、新しい循環型社会の取り組みとして、注目を集めるような結果となっています。そして、その様々な活動の結果、名張市の「バイオマスタウン構想策定協議会」の審議委員に理事長が就任したり、その協議会に参加している名張市商工会議所の会頭と意見交換を行い、「名張発のエコバイオマス事業化」を合意事項にして、ペレタイザーを地元で作るような努力をしていこうという取り組みに発展しているということができると思います。

日本ミツバチの「蜂蜜オーナー」の取り組みは、現在基礎実務の基盤整備中で、具体的な取り組みにしていくためには、もう少し時間が必要と思われます。石窯講座などの取り組みは定着して、ファンを獲得していく緒に就いたといえると思います。NPO法施行10周年の「都道府県第1号認証団体サミット」は、未開催。

### 3. 里山保全活動を安全に推進する「モデル事業団体」として、全国にアピールしていく。

「森林里山作業安全指針」を創設して、HPに掲載するばかりでなく、特定非営利活動法人国際ワークキャンプナイスの重要な取り組みの一つになり、この指針が全ての会員向けに配布されたことは、とても重要な役割を果たしたということができると考えています。もちろん、08年度は3回以上のワークキャンプを開催しましたが、大きな事故・怪我などは発生しませんでした。また、指針の具体的な使用として、今年行われた「青年里山フォーラム」での活用がありましたが、やはり使いづらい箇所などがあり、数箇所の変更修正をおこない、使い勝手のよい、指針にしていくように取り組んでいます。

#### 4. NPO 諸団体との新しいネットワーク化を追求し、NPO 法施行10周年を祝い、更なる発展の契機とする。

第1号認証団体サミットはできませんでしたが、赤目の里山を育てる会が一番大切に重要なパートナーである名張市と、関係改善が図られたことは、特筆すべき事項だと考えています。市政55周年での赤目の里山を育てる会を特別表彰していただいたことは重要で、その結果といえるかもしれませんが、市政の審議委員依頼ということも、過去20年間で一度も無かったことです。また、商工会議所会頭との関係が構築されて、名張市の産業発展のために、ともに頑張っていけるような場に立つことができたのも、これまでのオリジナリティ—高い取り組みが評価されたものと考えています。また、名張市の市民公益の実践事業などの取り組みを通じて、市内のNPO団体との交流、連携を模索し始めていますが、大きな成果は得られませんでした。しかし、新年度にはそれらを補完してくれる委託事業の応募もあり、新しい仲間とともにNPOの再交流の場を創出して、更なる発展につなげていく契機にしていきたいと考えています。

#### 5. デイサービス赤目の森 独自の特徴あるサービスを提供して、介護事業の安定と充実を図る。

今年度は、過去最高の介護報酬を得ることになりました。介護報酬の切り下げの中でこのような取り組みができたことの大きな要因は、デイサービス赤目の森のサービスはどこにもここにもあるものでないことを決定付けました。というのも、開所の数年は、赤目の里山を育てる会の知り合いや関係者の利用が多かったのですが、その方々に変わり、今ではほとんど関係の無い方であり、ケアマネージャーが赤目の森の良さを十分に認識していただき、「ここしかない」というような思いで、利用者様をご紹介していただく場面が増えてきています。ですから、通所介護施設は過当競争に入ったといわれる時代ですが、十分に生き残っていけるサービスと施設であるということがいえると考えています。

もちろん、日常的な職員のサービスへの研鑽や安全確保のための研修などは、怠らないように努めていきたいと考えています。職員の退職がずっと続き、職員の確保は管理職の一番大きな業務の一つなのですが、やはり、働き続けたい労働条件の確保が一番重要であると考えています。次年度には、労働条件改善策を実現していきたいとかがえています。

#### 【一年を振り返っての概観】

前々年の中心職員の退職で生じた諸問題は、一応の解決を見出したかに見えたが、介護職員の6月の交通事故の影響による退職で、また同じような人材不足でその確保と、交通事故の処理に負われて大変だった。それは一年間の問題であり続けて、解決の方向が見えなかったし、その結果問題を抱えることになった。世の中の不景気による福祉現場への人材流失が言われていますが、そんなに変わることはありません。いつも、人材不足は深刻です。このような中で、過去最高の介護報酬を確保することができたことを喜び、どこにも負けないサービスの提供に努めて行きたいと思っています。

里山の保全や整備事業は、地元の会員による保全事業は進んでいません。しかし、国際ワークキャンプ「ナイス」でのキャンプに参加したOBやOGたちが献身的に赤目の森に集い、その結果として赤目の里山の維持ができているといっても過言ではありません。その中で、「青年里山フォーラム」が行われ、全国から多くの青年たちが集まったということは特筆すべきことでもあります。また、そのようなイベントや通常の春冬の二回キャンプに戻りましたが、大きな事故もなく、無事に完了したことを喜びたいと思っています。

昨年9月には税務署の本格調査が行われました。それにより、追徴課税を受けましたが、その基本的な手法には大きな問題があります。このような中で今年度も収支を出しましたが、自覚して法人税を少しですが、支払うことになりました。その問題は里山保全の本来事業をやり続けると、黒字化は困難な訳ですが、収益事業のデイサービス赤目の森の収支は、黒字になる可能性が出るような状態ということです。なぜなら、デイサービスに関わる管理職の人件費が収入科目の本来事業と収益事業の割合で按分されるからです。税制の問題も新年度の課題となります。自分達の取り組みの幅が確実に広がり、名張市からも信頼を得て、このまちの「まちづくり」に一定の貢献ができるようになった初年度であったということがいえるかもしれません。廃棄物処理業者に反対して、赤目の里山を育てる会を設立して、13年後に自分達が廃棄物処理業者になるとは思いもしないことでした。その期間の地道な取り組みを自分達で評価して、新しい年にむかって更なるチャレンジと思っています。

(特)赤目の里山を育てる会 第12回定期総会 資料

## 2008年度 本来事業 会計収支決算書

(2008年4月1日から2009年3月31日)

特定非営利活動法人 赤目の里山を育

てる会

科 目 金額(単位 : 円)

### I 収入の部

1	会費収入	185,500
2	寄付金収入	447,600
3	各種助成金収入	1,010,000
4	トラスト寄付金収入	50,000
5	実費負担収入	0
6	受託事業収入	30,000
7	自主事業収入	13,140
8	介護事業収入	17,699,605
9	その他収入	2,294

### II 支出の部

1	本来事業費	
①	助成金事業費	1,533,973
②	企画運営費	14,460
③	里山整備費	62,208
④	委託費(介護系)	636,645
⑤	介護事業費	16,989,005
	本来事業費計	19,236,291
2	管理費	
①	図書印刷費	20,787
②	諸会費	72,483
③	事務消耗費	35,712
④	地代	80,000
⑤	広告費	185,162
⑥	車両関係費	98,393
⑦	出張旅費	185,768
⑧	通信費	259,593
⑨	振り込み料	44,940
⑩	その他	707,857
	管理費計	1,690,695

当期収入合計 19,438,139 (a) 当期支出合計 20,926,986(b)

当期収支差額 (a) - (b) -1,488,847

前期繰越残額 -99,905 次期繰越収支差額 -1,588,752

### 収入内訳

会費	個人17	賛助 1.5
寄付金	個人30万	東海労金 14万
助成金	全労災 81万	名張市20万
自主事業	理事長講演	
介護事業	介護報酬	1,605万円
	自費負担分	165万円

### 支出内訳

・ 助成金事業	左記 事業分
・ 企画事業	キャンプ企画など
・ 委託費	シルバー人材
・ 租税公課	その他のうち657,000円
・ 図書印刷費	印刷資材など
・ 諸会費	ナショナルトラスト協会など
・ 車両費	里山関係のみの車両費
・ 出張旅費	理事長出張費など
・ 通信費	切手代 郵送費

# 2008年度 貸借対照表

2009年3月31日現在  
特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会  
金額(単位 : 円)

科 目			
I	資産の部		
1	流動資産		
	現金預金		
	内訳		
	現金	35,679	
	郵便貯金	29,004	
	郵便振替	347,300	
	第三銀行	14,238	
	第三銀行	1,200,919	
	第三銀行	185,891	
	第三銀行	383,635	
	ろうきん東海	495,631	
	介護報酬未収金	2,183,340	
	介護自費未収金	4,370	
	仮払金	13,770	
	流動資産合計	4,893,777	(a)
2	固定資産		
	有形固定資産		
	車両運搬具	軽トラック	41,902
	車両運搬具	林内作業車	59,705
	車両運搬具	送迎車両	1,266,904
	什器備品	高速印刷機	43,712
	什器備品	木製案内看板	13,907
	什器備品	デジタルカメラ	13,383
	什器備品	コンピューター	122,002
	什器備品	ペレタイザー	527,739
		ペレタイザー	826,000
	建物	ミニログハウス	458,432
	第1号トラスト地		1,501,000
	第2号トラスト地		1,000,000
	有形固定資産計		5,874,686 (b)
	資産合計		10,768,463 (a)+(b) = (c)
II	負債の部		
1	流動負債		
	借り入れ金	3,398,723	
	未払金	3,398,373	
	社保預り金	163,624	
	市民税預り金	141,896	
	源泉預り金	42,114	
	立替金	3,384,392	
	流動負債計	10,529,122	

負債合計	10, 529, 122	(d)
Ⅲ 正味財産の部		
正味財産合計	239, 341	(c)-(d)

1. 固定資産は次の方法で減価償却計算をしている。

車両運搬具 什器備品 : 定率法

2. 正味財産の増減内訳

減少	
当期収支差額 (減価償却費計上)	-1, 488, 847
当期正味財産減少額	-1, 488, 847
前期繰越正味財産額	-99, 905
期末正味財産合計額	-1, 588, 752

3. 収支についての説明

介護保険法の改定により介護報酬が引き下がっているが、その影響よりデイサービス赤目の森の信頼が伸びてきて、利用数が拡大し続けたといえます。また、人件費はほとんど変えませんでした。

介護収入は、これまでの歴史の中で最高の介護報酬となりました。

資産と負債が同額となりましたが、団体の基礎収入よりも支出を減らせば、収支の改善は果たせます。

CO2 削減 地球温暖化防止の意味でも、節電節約のための器具変更や新設で対応したいということでしたが、実行して毎月の光熱費を 1 割削減を実行してきたといえます。



里地里山モニタリング 1000 の水質の研修 (豊田市)



デイサービス赤目の森の介護事業 損益計算書 単位円 2008.04.04-2009.03.31

三重県名張市上三谷 268-1

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会

収入	・ 介護報酬	16,047,405円	
	・ 食事自費代等	1,652,200円	
	合計	17,699,605円	月額1,474,967円
支出	人件費	6,112,784円	(+非営利分243,067円)
	福利厚生費	766,061円	(+非営利分31,013円)
	家賃等	4,680,000円	(+非営利分120,000円)
	光熱費	1,111,808円	(+非営利分109,960円)
	イベント事業費	266,614円	
	委託費	636,645円	
	食材関係費	654,699円	
	車両関係費	1,484,387円	
	広告費	185,162円	
	通信・図書費	189,474円	
	諸会費	30,000円	
	研修費	40,000円	
	日常消耗品費	164,569円	
	備品消耗費	150,000円	
	事務消耗品費	30,000円	
	出張旅費	115,000円	
	減価償却費	890,000円	
	地代	80,000円	
	支出合計	17,587,203円	
	収支合計	利益	112,402円

法人全体のデイサービス事業分を抜き出した数字であります。

非営利部分として経費から抜き出した数字は、法人全体の収入割合から、デイサービス部分の収入割合 91%から算出したものです。人件費は理事長の年収2,700,750円の 9%を経費外に同じく福利厚生費の理事長分の 344592 円の 9%を経費外とした。

家賃は、従事面積による按分が適当なので、事務所の利用面積(7.8㎡)から算出した。その結果月額 40 万円の 2.5%1万円×12ヶ月=12 万円を非営利部分としました。

デイサービス赤目の森の特徴である里山の介護利用によるための大切な施設としての里山広場などの地代を今回から計上しました。8万円

減価償却は、送迎車分とペレタイザー分です。ペレタイザーは冬場の燃料を作る機械で、デイサービス赤目の森にとっては不可欠な機械です。

法人全体の収支計算書から見ると、支出項目の数字が合致しない場合がありますが、デイサービス事業外の科目で計上されて支出されているものもあり、整理した数字が上記内容です。

みどりの基金 会計報告

2009. 3. 31

◆ 協力者数 65名	協力者一覧 (申し込み順 敬称略)		
藤野真一 (名張)	島田つや子(西宮)	高橋章(名張)	牧村好貢(木津)
家古谷瑛子(八尾)	塚脇英明(東大阪)	山川一成(高槻)	寺家静恵(守口)
水谷康範 (名古屋)	有吉春久(名張)	中村清(名古屋)	遠 典子(室生)
水谷義明 (吹田)3口	佐々木倭文子1. 2口(吹田)	濱崎勝美(堺)	西田宏子(生駒)
西田宏民2.4口(生駒)	文殊和美(名張)	福田和夫(木津)	石田一宏(流山)
永田昇 (豊中)	平野晴康(渥美郡)	速水敏子(大阪)	岡田光代(松原)
木下利一郎(松原)	鈴木紀(名張)	吉森加大(名張)	谷川洋一(東大阪)
松嶋欽一 (名張)	木村香代子(泉佐野)	西田一雄(京都)	ハガ武 (大阪)
ハガ制子 (大阪)	福森亮二 7口(名張)	舛次崇(西宮)	伊井野雄二(名張)
田村修市 (名張)	古川田鶴子(京都)	下川朋子(東大阪)	高田和弘(名張)
浜口秀子 (東大阪)	八島かをる (名古屋)	松本をよ(高砂)	笹尾美津子(大阪)
田郷誠之助(名張)	佐山孜 (名張)	市橋孝子(名張)	高田直俊2口(池田)
内田吉保 (名張)	前田善孝(名張)	谷川正行(名張)	市橋文子0. 2口(名張)
熊本芳文 (名張)	吉田薫 (名張)	若松シズ子10口(寝屋川)	福井正樹(名張)
藤田洋子0.5口(西宮)	仲田敏0.4口(名張)	山崎忠久 (上野)	永山健二0. 5口(名張)
村上豊0. 6口(堺)	山岡義典(狛江)	山上佳代子様 0. 2口(堺)	佐藤範明様0. 2口(大阪)
久保克美様(大阪)	高松佳世子(名古屋)		

◆ 口数 81. 4口

◆ 基金総額 ￥4. 070. 000-

◆ 取得不動産

	第1号地	第2号地
買取日	97年2月	2000年12月
面積	2934平方メートル	1086平方メートル
住所	三重県名張市上三谷字赤坂	三重県名張市上三谷字赤坂
地目	山林	田
名義	特定非営利活動法人赤目の里山を育てる会	吉森 加大
取得価格	￥1. 501. 000-	￥1. 000. 000-
手続き費用	￥10. 842-	￥44. 420-

今年度のトラスト地 維持管理費	草刈機	トラスト地の管理用	35000 円
	2009. 3. 31現在の取得整備費用合計		￥3, 309, 465-
	2009. 3. 31現在のトラスト資金残		￥760, 535-

第1号地現況

- ・ 座席周辺の草刈 倒木処理 などの実施
- ・ 座席上部の倒木 伐採材の撤去
- ・

第2号地現況

- ・ 一昨年 地目を田から変更する手続きを行った。完了は1年以上かかる見通しで現在も進行中。隣地の確認
- ・ 草刈を実施。青年里山フォーラムで 木道トレイルを全面手直しを行う。

【第2号議案】 2009年度の予算計画案

特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会 第12回 総会資料

2009年度 予算計画書 案

09. 4. 1 ~ 10. 3. 31

収 入		支 出	
1	会費収入 200,000	1	本来事業費
2	寄付金収入 500,000	①	助成金事業費 6,000,000
3	各種助成金収入 6,000,000	②	企画運営費 50,000
4	トラスト寄付金収入 100,000	③	里山整備費 50,000
5	実費負担収入 10,000	④	受託事業費 3,800,000
6	受託事業収入 3,800,000	⑤	介護事業費 20,000,000
7	自主事業収入 100,000		本来事業費計 29,900,000
8	介護事業収入 20,000,000	2	管理費
9	その他収入 50,000	①	図書印刷費 10,000
		②	諸会費 70,000
		③	事務消耗費 20,000
		④	地代 80,000
		⑤	備品消耗費など 10,000
		⑥	車両関係費 150,000
		⑦	出張旅費 80,000
		⑧	通信費 100,000
		⑨	その他 100,000
			管理費合計 620,000
	当期収入合計 30,760,000		支出合計 30,520,000

当期繰越差額 240,000

前期繰越残額 -1,588,752

次期繰越収支差額 -1,348,752

《収入部門》

- ・ 毎年の事ながら、助成金や受託事業などは、申請して勝ち抜いて得られる収入であるため、高額な金額を計上しているが、獲得できるかどうかは分かりません。現時点での申請状況によります。既に獲得したカーボンオフセット340万 名張市事業70万などが5月末で確定しています。三重県の緊急雇用対策の事業が取れば、プラス315万円です。
- ・ デイサービス赤目の森の独自性を十分維持し、広告宣伝を欠かさない。

昨年のデイサービス月平均報酬 148万円 - 昨年 128万円 今回の予定金額は 167万円 (12%増)

《支出部門》

- ・ 本年から方針として、助成事業 委託事業の中で、赤目の里山の保全整備事業を行うこととし、団体自身が生み出した資金以上に、それらの経費として支出をしないということにします。基本的に組織を維持するだけの自由に使える資金が潤沢ではないことが問題で、ミッションを実現するための会員獲得 寄付金のお願いは組織の原則です。
- ・ デイサービス事業費は、収支トントンでいけても 課税対象となります。
- ・ 小規模共催保険のようなものへの加入を、節税面から検討したいと思います。

## 2009年度の活動方針案

### 1. 特定非営利活動法人 赤目の里山を育てる会の基盤強化を取り組む (3年計画の2年目として)

会員の善意を上手に生かす条件を整えながら、業務を分担する取り組みを行う。単年度での取り組みではなかなか推進できないので、3年間で取り組むこととする。事務局を手伝ってもらえる人材を確保していく。

- ・ 組織内の業務を分担化して、無理のないスムーズな活動を行う。

里山整備 青年キャンプ助成事業 広報 吉田理事を中心に青年達を組織

会計 3000万円を超える収入となっているので、会計専門家に一部業務を委託する

イベント 市民に親しみやすい事業を各種の助成事業で行っていく。

助成金事業 緊急雇用の行政支援の事業を利用して、雇用を確保して団体の基礎的確立を目指す。

- ・ 基礎基盤を確立するための各種文書や資料作りを行う。今年度の最重要課題として位置付ける。

会員募集 育てる会のチラシ パンフレット など

- ・ ワークカンパニーや事業に関わる多くの人たちに会員になってもらうように働きかける目標は20名。

### 2. 育てる会のオリジナリティ溢れる活動で、私達のミッションである里山保全・介護事業を展開して、全国のモデル事業として取り組まれるような役割を果たしていく。

里山保全 環境学校教育 キャンプ実施による青年教育 日本ミツバチの養蜂の利用 カワバタモロコやハッチョウトンボの希少種の保護育成、 ナショナル・トラストでの保全地確保 里地里山のモニタリング調査参加、石窯を利用した講座開設 デイサービス事業の実施 ペレタイザーを中心とするペレット産業の振興、薪作りなどの多くの事業を抱え、これらを有機的に結合して、年間を通じた活動が多くの人たちと一緒に取り組まれるように広告 啓発していく。年間スケジュール化で新しいニーズに応えた事業を展開。

### 3. 育てる会は、地元の行政や商工会議所、青年グループ、全国のNPOグループ、国際ワークキャンプ「ナイス」などと連携して、まちづくりをミッションとして位置づけて、広範に活動を取り組む。

09年度早々から、名張市バイオマスタウン構想策定検討会議の委員として理事長が着任し、名張市商工会議所関係者と名張の産業振興での協働が進んでいる。「ナイス」のキャンプが今年の夏で10周年20回を開催することになり、10月3日に東京で、記念の式典と赤目の里山を育てる会の中にOB OG 会を組織していきたいと考えている。また、市民公益活動の支援事業では、地元の青年達の関わりを築くべき、合同キャンプをもって、地元のまちづくりのリーダーを生み出していきたい。また、今年度から当会理事長が、NPOのナショナル・センターとしての「日本NPOセンター」の評議員に着任したのを契機に、全国のNPOグループとのつながりを強化する。

### 4. 名張市に「里山保全条例(仮称)」を設置するように働きかけを起す。

地元企業や行政との関わりでの伸張で、育てる会に対する信頼信用が高まるのが予想されます。そして、赤目の里山を育てる会としての事業化を考えると、「原風景を心に住み着かせる」事業つまり、整備された赤目の里山に多くの小学生中学生を入れ込んで、自然体験を積むことによって、人材育成を図る事業展開の中で、どうしても重要に位置づけなければならないのは、「里山保全条例(仮称)」の制定です。この条例制定により、各種事業が公益の事業だとの認定を受けることになるということです。人のネットワークから、時代や人が変わっても、変わらない決まり約束事つまり、「条例」制定を大きな取り組みの柱としていきたいと考える。

### 5. これまでの取り組みを振り返り、赤目の里山を育てる会として中長期的な計画展望を確立していく。

組織のあるべき姿を検証し、これからのあらなければならない姿を照らし出す作業がどうしても必要な状況になってきた。地元の評価や信頼が高まり、これから一緒に何をやっていけばよいのかを、自分達の組織の力とネットワークからみて考え、中長期的な視野に立った展望を、指し示さなければならない。ミッションの実現では、里山の保全買取、介護事業が中心となるが、まちづくりの中でのNPOの役割を考えれば、今後ますますそのセクターへの赤目の里山を育てる会としての中間支援的な役割は、増大していくものと思われ、その有機的なつながりと、バランスの取れた取り組みを制御すべき、中長期的な計画展望が求められると考える。